



出張報告書

令和7年12月12日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会
代表者氏名 高谷 浩司
出張者氏名 長崎 くみ

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和7年11月10日から令和7年11月11日まで

2 結果の概要

用務先 ・宇部市 ・北九州市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 まちじゅうエヴァンゲリオンの取組について 2 北九州市DX推進計画について
添付書類 ☒ 出張調査報告書 ☐ ☐ ☐	備 考

3 届出事項の変更等 ☐ なし ☒ あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

- ☐ 精算額は、令和 年 月 日届け出た額 (円) と同一額である。
- ☒ 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

■ 11月11日

小倉バスセンター→北九州市役所

届出：西鉄バス200円

変更：タクシー295円 (1,180円÷4名×1名分)

※別途届出の会派議員を含む7名で、2台に分かれて乗車

差額：95円

<理由>

通勤時間帯でバスが大変混雑しており、キャリーケースを伴っての団体乗車が難しく他の乗客に迷惑をかけると判断したため。

北九州市役所→小倉駅

届出：西鉄バス200円

変更：タクシー255円 (1,020円÷4名×1名分)

※別途届出の会派議員を含む7名で、2台に分かれて乗車

差額：55円

<理由>

視察終了時間が予定超過(11:30→11:50)したことで、同行の6名が乗車する予定の12:14小倉駅発の新幹線に間に合わずタクシー2台での移動となったため、そこに同乗した。

支 出 額	50,880円
精 算 額	51,030円
支出 差引 額 戻入	150円

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
前							
発着地							
後							
前							
経 路							
後							
前							
用務先							
後							
前							
宿泊先							
後							

出張報告書

【日時】2025年11月10日(月)

【視察先】山口県宇部市

【テーマ】まちじゅうエヴァンゲリオンの取組について

【報告者】日本維新の会 長崎くみ 長崎くみ

【報告】

令和7年11月10日、日本維新の会尼崎市議団では、山口県宇部市を訪問し、同市が令和3年度より展開している大型観光施策「まちじゅうエヴァンゲリオン」について視察を行いました。

「まちじゅうエヴァンゲリオン」は、庵野秀明監督の出身地である宇部市が、作品へのリスペクトと地域への愛を込めて、行政と市民、企業が一丸となって作り上げている、『エヴァンゲリオン』ファンにとってはまさに「聖地」を巡礼できる、非常に力が入ったイベントです。

本施策は、宇部市市制100周年を記念して令和3年度に開始され、今年で5年目を迎えます。

Q:この5年間の変化、進化した点を教えてほしい。

A: まちじゅうエヴァンゲリオンが始まる前から、宇部市は庵野秀明監督のフィギュア展やエヴァンゲリオンの企画を行っていた。そうした中で、企業とのコラボレーション、メディア取材、2025年には『新世紀エヴァンゲリオン』のテレビ放送開始から30周年を迎えることも視野に入れての展開になっている。

Q:著作権についてはとても厳しいと思うが、どのように行われているのか。

A:株式会社カラーに第2弾から入ってもらい、監修を受けている。

ストーリーとテーマがあっていないと使えない

Q:市の事業費と経済効果を教えてほしい

A:委託事業者に約4000万円に支出、約13億円の経済波及効果が確認されている。

(地元の研究所に依頼して調査)

Q:5年目を迎えるが、特に話題となった企画や継続企画を発展させていることを教えてほしい

A:・第3弾でときわ公園に設置された宇部市内の企業(宇部スチール)が制作した全長7mを超える巨大な「ロンギヌスの槍」が人気。市内の企業が自ら製作を申し出てくれて、廃材等を利用して作成してくれた。ファンはこれを見にやってくる方も多い。

・飲食店においては、ファンの方との交流が進み、より意欲的にイベントを盛り上げてくれている。今後はお土産となるコースターを店ごとに変えたりと工夫される。

・スタンプラリーはデジタルで行っていたが、紙の方がファンにとっては喜ばれることも多かった。

・エバンゲリオンとのコラボラッピングバスのアナウンスに声優を起用するなど、ファン目線の意見を取り入れ、好評。

・第5弾:令和7年11月20日には、宇部市の「彫刻のまち」という側面を活かし、『エヴァ』をテーマにした彫刻デザイン案を公募、62作品から選ばれた1点を宇部スチールが制作し、JR 宇部新川駅前に設置される。

【所感】

尼崎市と宇部市の類似点:重工業が経済基盤を築いた街。

両市とも、戦前から戦後の高度経済成長期にかけて、重化学工業という第二次産業が地域の発展を牽引し、大きな経済力を築いた「工業都市」である点が共通しています。

その中で、観光集客を生むこの取り組みは、行政だけでなく、地元企業、ファンの声、庵野秀明監督の世界観を大切にしながらの、きめ細やかな取り組みだと感じた。

エバンゲリオンファンに刺さってほしい想いを企画の最初からやり続けており、宇部市の特徴としての彫刻の街をもライトアップするような取り組みだと感じた。

「ロンギヌスの槍」が設置されている公園は、様々な芸術家の彫刻作品が展示され、彫刻に中に入って遊んでいる子供たちの姿も、自然にこのような芸術作品に触れていてとても良い環境だと感じた。

尼崎市においても、尼子 騷兵衛先生の漫画ギャラリーの入場者が増えていることがとても喜ばしい。作者や著作権、世界観を大切にしながらの企画について考え、ファンの声からの企画、地元の企業との連携などを今後も実践していけるように尼崎市に提案していきたい。

出張報告書

【日時】2025年11月11日(火)

【視察先】福岡県北九州市

【テーマ】北九州市 DX 推進計画について(政策局・AI 戦略室)

【報告者】日本維新の会 長崎くみ 長崎くみ

【報告】

令和7年11月11日、日本維新の会尼崎市議団では、福岡県北九州市を訪問し、同市が推進する「DX 戦略」および「ロボット・DX センター」について視察を行いました。

北九州市はかつて製鉄業を中心に発展、現在は「日本一のエコシティ」を掲げて持続可能な都市経営を進めている。

特に DX(デジタル・トランスフォーメーション)に関する取り組みは全国的には先進的で少子高齢化を見据えた取り組みである。

スローガン:市民でよかった!職員でよかった!「書かない、待たない、行かなくていい」の市役所を目指す。

将来展望:業務改善で生み出された時間・人材は行政課題の先取り解決や、相談業務に従事してもらいたい。市だけではなく、大学や周辺施設、企業にも市の DX 推進効果を波及させていく。

成果:マイナンバーカード78%の方が有している。コンビニ交付30万件(27%)を超えており、窓口発行件数は34%減少している。

手続き全2,60件中の1,990件(84%)をオンライン化している。

➡今年度中に100%を目指す。

デジタル関係の講座を市民センター(130か所)で行っており、これまでの16,000人が参加、高評価を得ている。

Q:人材育成については制度上何か職員にプラスになるのか。

A:研修は受けたことで、報告、記載してもらえる仕組みであり、現在はプラスとなる制度というわけではない。職員は積極的に研修には参加している。

Q:窓口が別だが、同じ個人情報を書かなくてよくなっているのか。

A:一部の手続きでの仕組みはあるが、例えば第一子の出生、第二子に給付が必要である場合などは、まだそれぞれの窓口での記載となる。

Q:所管課のシステムの連携はとれているのか。

A:国の標準化に向けては、SE のリソースが足りないので、標準化のパッケージだけの対応になっている。標準的な業務フローの見直しを行い、職員さんが委託業者さんにももらっている書類のチェックや一元的にデータ化などをバックヤードでできる取り組みを考えている。

Q:地域活性化企業人、デジタル専門人材について

A: 地域活性化企業人は基本的には、AI が強い方、ツールを入れてきた実績のある方、業務改革をしてきた方などが、リーダー的な役割を担っていただいている。月の半分は来てもらっている。デジタル専門人材は正規職員として専門性を高めていただく。

Q:スーパーアプリ(市民向けの窓口)を導入検討していますか。

A:LINE の公式アカウントからいろんな手続きができるようになっている。

防災、ごみ捨て、いろんなページの飛んでいけるようになっている。

◆「ロボット・DX センター」とは

・地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入や DX (IoT の導入、業務のデジタル化) 推進をワンストップで支援するために、2022 年 4 月から活動を開始。

・「導入支援」、「操作体験」、「人材育成」等の取組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援しています。

また、集い・つながりの場として、地域企業と高度教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たしています。

市のスローガン:稼げる街、彩りがある街、安らぐ街。

稼げる街を实践するためにも、DX は重要と考え、取組んでいる。

◆北九州市の産業に従事している人数

1次産業(農業・漁業・林業等、自然の中から直接、資源を得る産業)2,751人(0.7%)

2次産業(一次産業で得られた原材料を加工・製造・建設する産業)93,037人(24.1%)

3次産業(一次産業や二次産業で作られたモノを「届ける・販売する・活用する」など、サービスを提供する産業)290,435人(75.2%)

全国平均に比べて、2次産業の従事者が多い。

<北九州市の取り組み>

・中小企業といっても、それぞれの企業において必要としているDX施策は様々であり、間口の広い施策を展開する必要がある。

・企業向けに、市が相談窓口を持っていて、その企業にとって役に立つDXの取り組み方法を、専門的に相談ができるようになっている。(SNS運用、システム構築など)

・経営者の意識が変わらないと、会社は変化しない。経営者層を対象にした

DXがどのように生産や売り上げにつながるのかなどの講座を行っている。

・市役所として、DX取組でよくなるということを表彰する制度があり、それを発信している。

・会社がDXを導入したいという課題に対して、ベンダーとユーザーを繋げる役割もしている。

【所感】

今回視察した北九州市は、今後の少子高齢化に向けて、DXによって課題解決を明確に打ち立て、また産業の発展＝稼げる街を掲げて、DXの取り組みを行っている。

DXによって、市役所業務と地域の稼ぐ力の後押しを市が行っている取り組みを拝見した。計画の見直し、人材の育成、地域企業への働きかけなど細やかな視点の結集を学んだ。このような取組を参考に、尼崎市にも提案していきたい